

◆ 敬愛学園高等学校(私立)

○受講生徒:普通科2年生 33 名

○使用時間:2コマ(50 分×2)

○充当教科:総合学習の時間

○授業のねらい:・年金問題を対象として、これから社会生活を送っていく上で、身近なテーマであることを理解してもらおう

・映像教材を用いて、年金の仕組みと給付内容、負担について理解してもらおう

○使用教材: ①テキスト

②映像教材

③10 個の「10 分間講座」

④教員の健康保険証

【1限目】

展開	内容	使用教材
5分	導入 ・社会保障の授業を実施する趣旨説明、授業の進め方等を説明	
40分	年金問題をクイズ形式により学ぶ ・高校生が最低限知っておくべき社会の仕組み、年金の役割等を知らせる。 ・生徒一人一人がクイズに取組み、 高齢化社会の中でどのように生活していくか 自分たちが生活していく中で、負担と給付はどのようになるか 年金の仕組みはどうなっているのか 年金の保険料を支払わないとどうなるか などをとおして、高校生として必要な知識を習得する。	テキスト 10 個の「10 分間講座」
5分	教員の体験から医療保険の必要性を説明 ・治療を受けた時の治療費の支払い等に対する保険適用の説明をし、生徒に医療保険の必要性を理解してもらおう。	教員の健康保険証

【2限目】

展開	内容	使用教材
5分	1限目の振り返り ・社会保障制度の機能と役割を確認する。	テキスト
25分	映像教材の視聴 ・社会保障制度が私たちの生活に身近なものであることを知るために、映像教材の中から、公的年金の役割と、これらが私たちの生活を守ってくれるものであることを理解してもらう。	映像教材
20分	教員と生徒との話し合いの中でまとめ ・年金の必要性等に対する感想を数人に発表してもらい、教員がまとめていく方法で、公的年金について理解を深める。 ・教員と生徒がアンケート調査票の質問内容の意味、意図していることを確認しながら、各自アンケート調査票に記入する。	テキスト

(参考)授業を担当した教師や受託会社の授業後の感想(「地域社会保障推進事業実施報告書」より)

効果的だったと思われる点	<p>○年金をクイズ形式によって解説したが、生徒へのアンケート調査でも“クイズで1つずつ説明したのでわかりやすかった”、“クイズ形式だと頭に入りやすい”という回答が多く生徒から好評を得た。</p> <p>○クイズ形式の場合、生徒の視線が机上のペーパーに集中し、解説する教員側への注意が散漫になる恐れが生じるが、この点をカバーするために、プロジェクターを用いて生徒の視線を画面に集中させ、解説を行った。</p> <p>○担当教員自身の医療体験から、住んでいる地域の自治体によって、健康・医療面で行政からの補助の割合が異なること、また、公務員や企業就業者、自由業者等について年金の違いがあることなどの説明があり、生徒にとって社会保障制度が自分たちの生活を守るために重要な役割を持っていることを実感でき、それによって授業への集中と関心を維持することにつながった。</p> <p>○授業の冒頭で、社会保障制度は高校卒業後、数年で自らの問題として考えなければならぬ点であることを説明したことにより、生徒の授業に対する関心が高まった。</p>
問題点等	<p>○クイズ形式とはいえ「10 個の「10 分間講座」」についてかなり急いで実施した感じがする。</p> <p>○生徒の中にはクイズを解くことに夢中になり、教員の解説に耳を傾けることがおろそかになる生徒も数人見られた。</p>